



2015年度
第2四半期 決算補足資料
2015年11月4日

株式会社UACJ

1. 2015年度上期業績

2. トピックス

1. 2015年度 上期業績

売上高 2914億円、経常利益 73億円

- LNG船用厚板や自動車関連が伸長したが、地金価格下落に伴う買い控えもあり、数量は前年同期比微減
- 売上高は、地金価格上昇の影響で前年同期比108億円増
- 経常利益は見通しを上回ったものの、当期の急激な地金価格の下落に伴う棚卸評価関係による悪化影響もあり、前年同期比44億円減

中間配当 3円／株

- 当初予定通り、中間配当3円／株を実施

2015年度 上期業績



(単位：億円)

	2014年度 上期 (A)	2015年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	2,806	2,914	108
連結営業利益	131	89	△42
棚卸影響前 連結経常利益	92	90	△2
連結経常利益	117	73	△44
連結当期純利益	56	43	△13
Adjusted EBITDA	233	243	10

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

セグメント別売上高・営業利益



(単位：億円)

	2014年度 上期 (A)		2015年度 上期 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	2,207	133	2,328	104	121	△29
伸銅品	261	6	244	4	△17	△2
加工品・関連事業	789	20	833	18	44	△2
(調整額)	△450	△29	△492	△37	△42	△8
合 計	2,806	131	2,914	89	108	△42

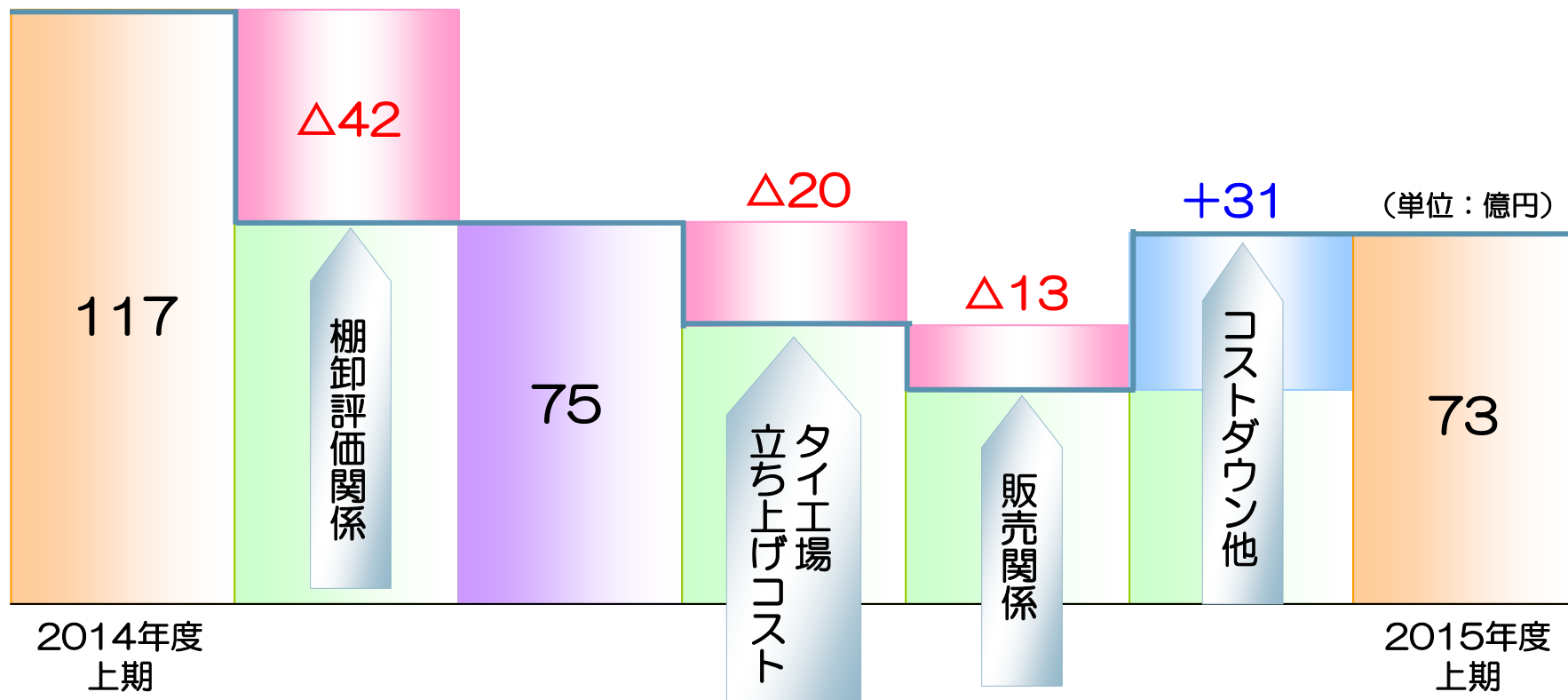
連結経常損益分析

(2014年度 上期 → 2015年度 上期)

117 億円 (2014年度 上期) → 73 億円 (2015年度 上期)

統合効果差 +20 億円を含む

(2014年度 上期実績 16 億円 → 2015年度 上期実績 36 億円)



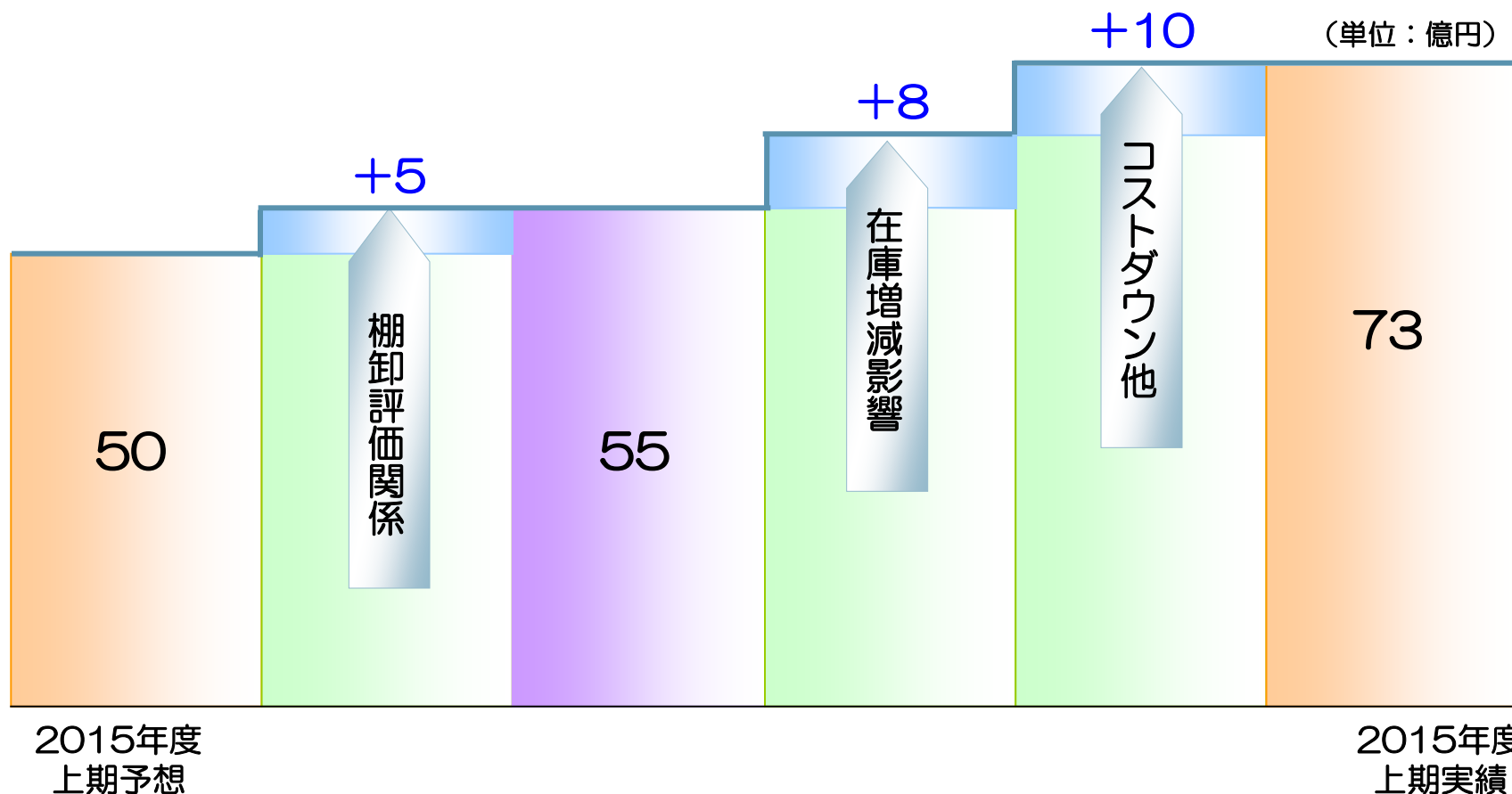
連結経常損益分析

(2015年度 上期予想 → 2015年度 上期実績)

50 億円 (2015年度 上期予想) → 73 億円 (2015年度 上期実績)

統合効果差 +20 億円は当初予定通り

(2014年度 上期実績 16 億円 → 2015年度 上期実績 36 億円)

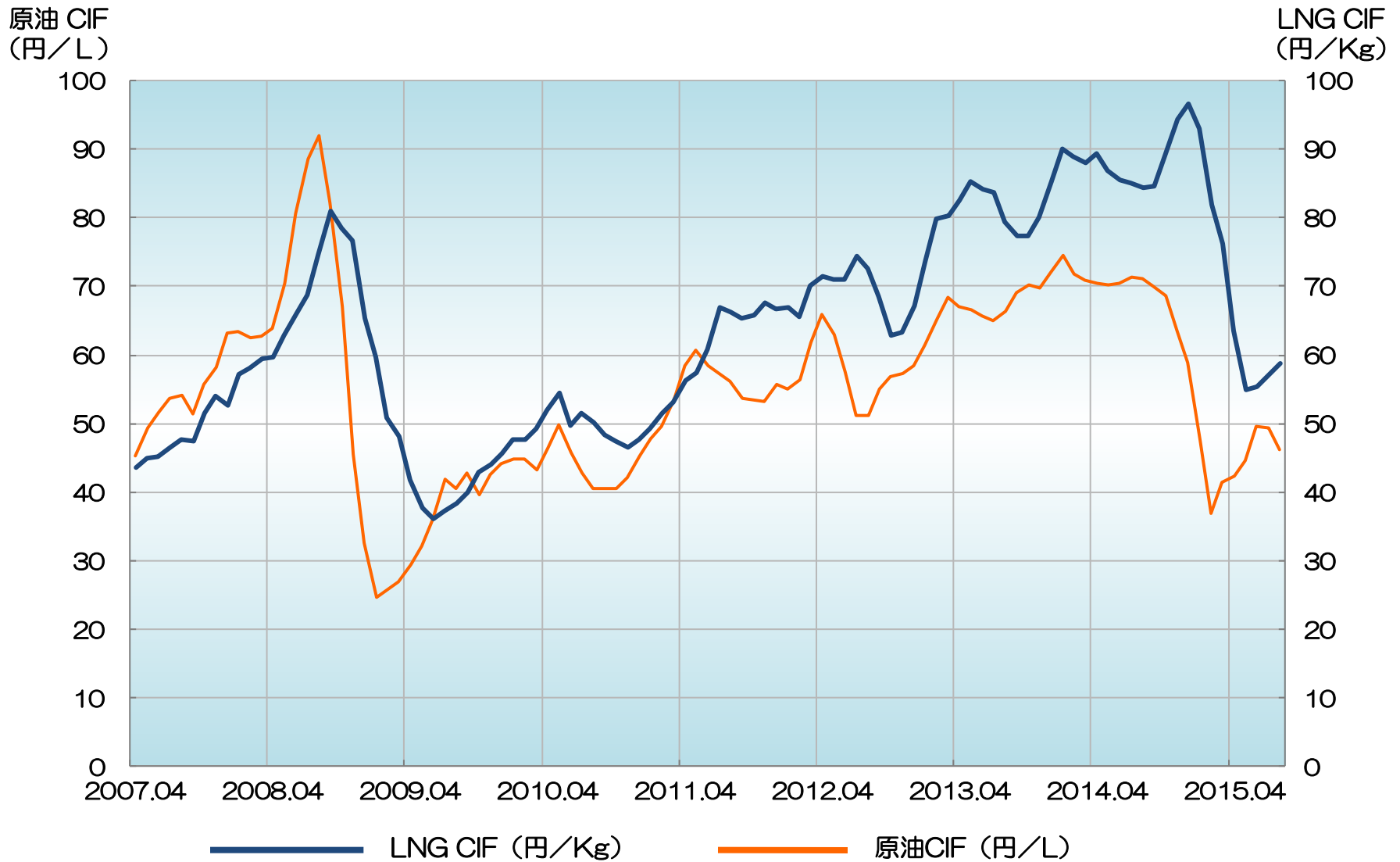


アルミ板 品種別売上数量

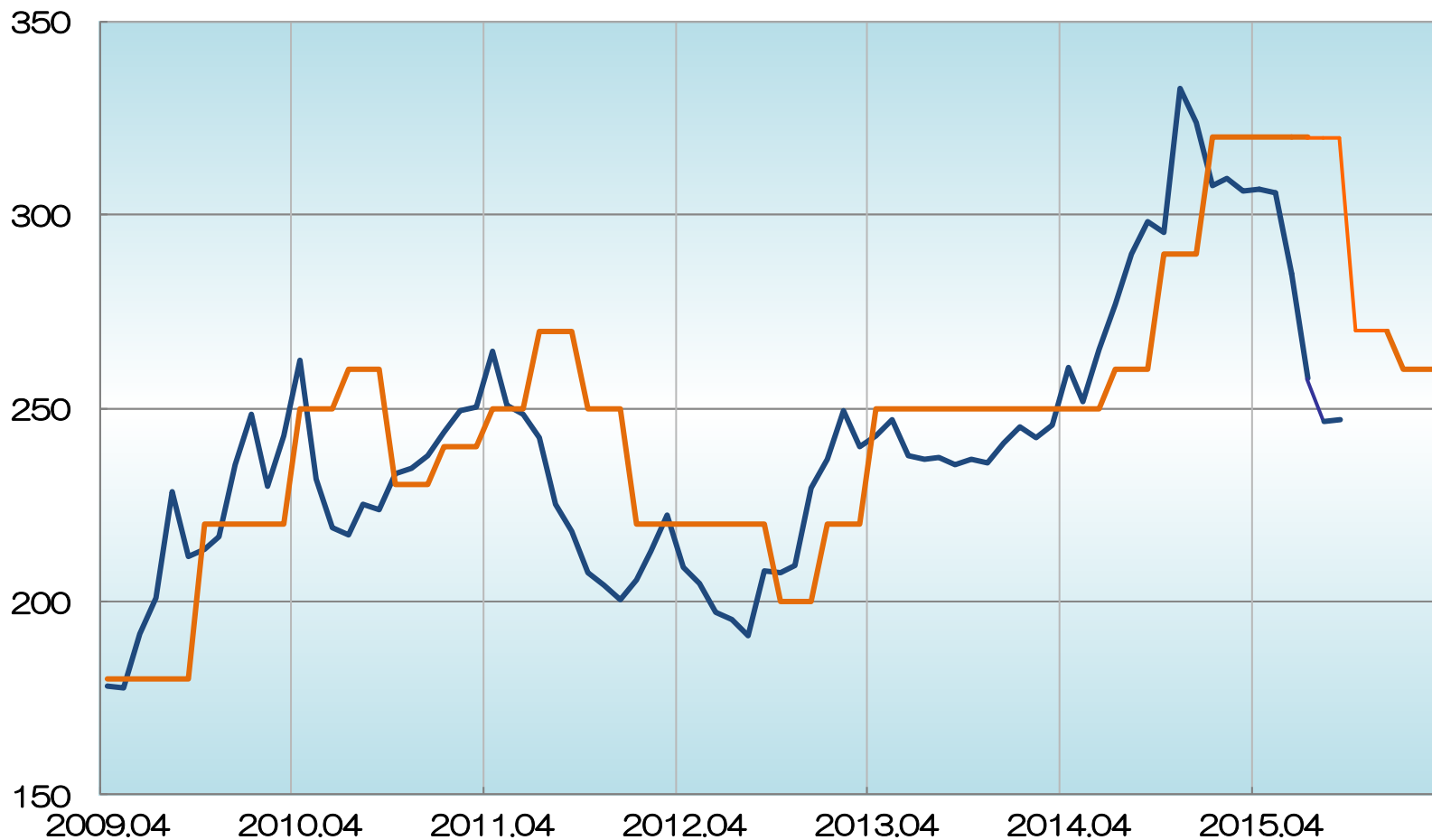
(単位:千トン)

品 種	2014年度上期 (A)	2015年度上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	310	301	△9
箔 地	25	23	△2
I T	14	12	△2
自 動 車	32	36	4
厚 板	22	30	8
その他一般材	84	70	△14
合 計	487	472	△15
	(国内市場向け 267) (海外市場向け 220)	(国内市場向け 259) (海外市場向け 213)	(△8) (△7)

燃料単価推移



(円/Kg)



— アルミ日経市況 — アルミ基準地金

	2015/3末	2015/9末
自己資本（億円）	1,723	1,750
自己資本比率（％）	25.4	25.9
有利子負債（億円）	2,960	2,844
D/Eレシオ（倍）	1.72	1.63
R O E（％）	5.3	5.0

※ ROEは年ベース換算値

(単位：億円)

		2014年度 上期	2014年度 通期	2015年度 上期	2015年度 通期見通し
設備投資	一般投資	52	120	55	120
	戦略投資	191	345	88	280
	合計	243	465	143	400
減価償却費		111	218	108	237
戦略投融资		-	38	-	未定

※ 通期見通しは当初予定通り

通期業績予想は据え置き

- 上期は、在庫の増減に伴うコストの期ずれなどにより上方修正したが、今後、中国経済、地金価格などに先行き不透明感があることから、現時点での通期業績予想は、第1四半期決算発表時に公表した数値を据え置き

期末配当 3円／株を予定

- 期末配当は当初通り 3円／株を予定
(中間配当3円／株、年間合計6円／株)

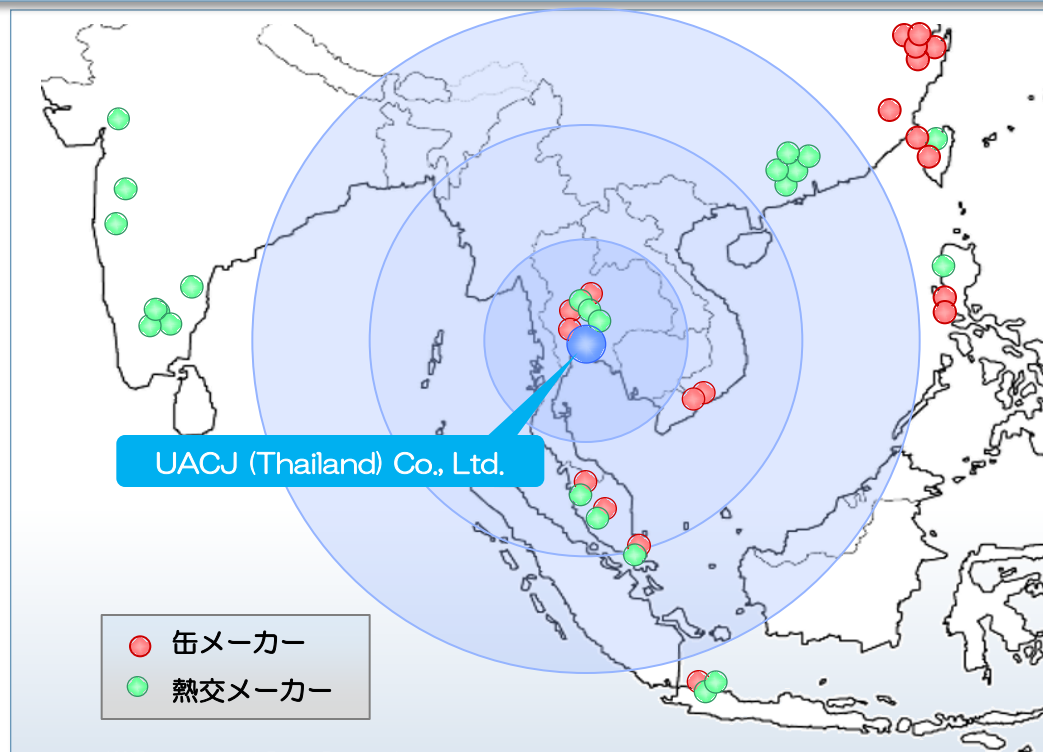
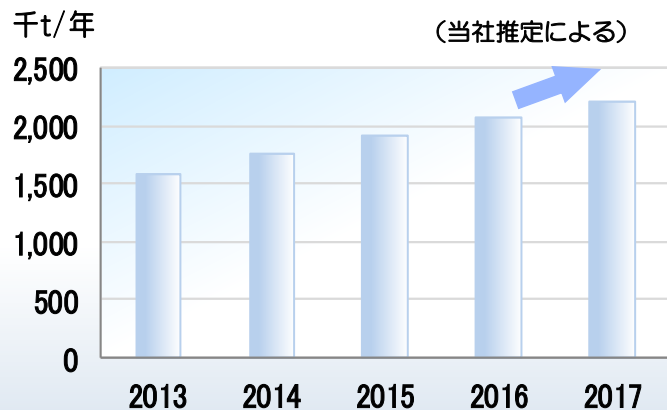
2. トピックス

アジアのアルミニウム缶材・熱交材マーケット

東南アジアおよびその周辺地域での需要は拡大

アジアには、缶および熱交メーカーが多数

東南アジアおよびその周辺地域
(中国、韓国、日本除く) 需要見通し

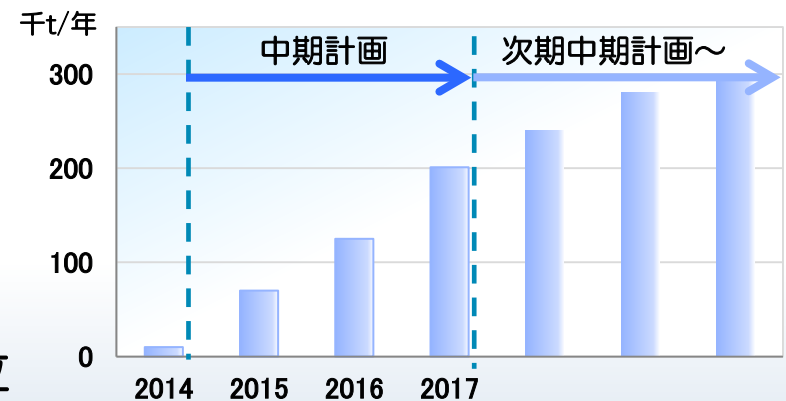


アジア最高レベルの生産拠点への推進

一貫生産体制の確立

- 2015年8月に鋳造～熱間圧延工程を立ち上げ、一貫生産体制を確立
- 2015年11月にグランドオープニングセレモニー開催
- 2017年までに年間20万tの供給体制確立

UATH 生産数量推移



競争力強化による差別化

- アジアのアルミニウム板製造基幹工場として高品質と低コストを両立する
- 製造、販売、研究開発一体で市場にアプローチ



ラヨン製造所 工場全景



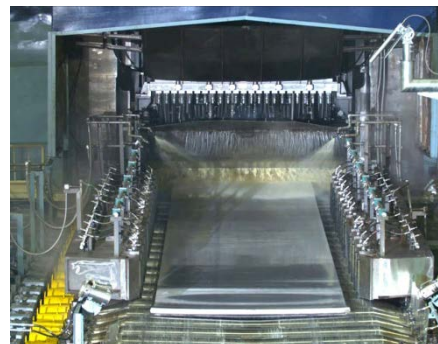
一貫生産開始



溶解炉と保持炉



スラブ

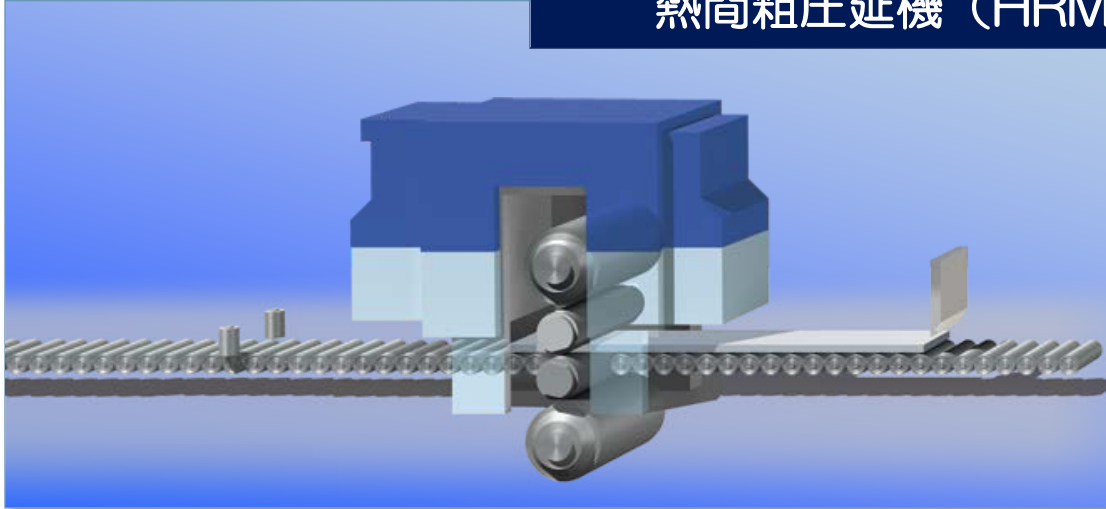


熱間粗圧延機



熱間仕上圧延機

熱間粗圧延機 (HRM)



HRM (Hot Roughing Mill)

タイプ	4-high Reversing Mill
最大速度	180 m/min
最大幅	2,250 mm (ロール面長: 2,500 mm)
最大重さ	30 t

熱間仕上圧延機 (HFM)



HFM (Hot Finishing Mill)

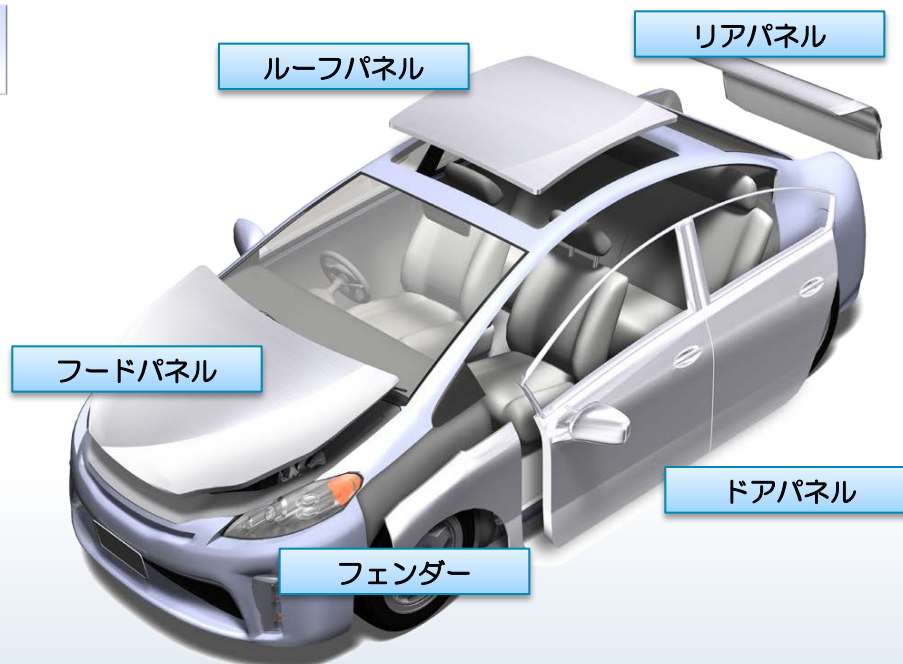
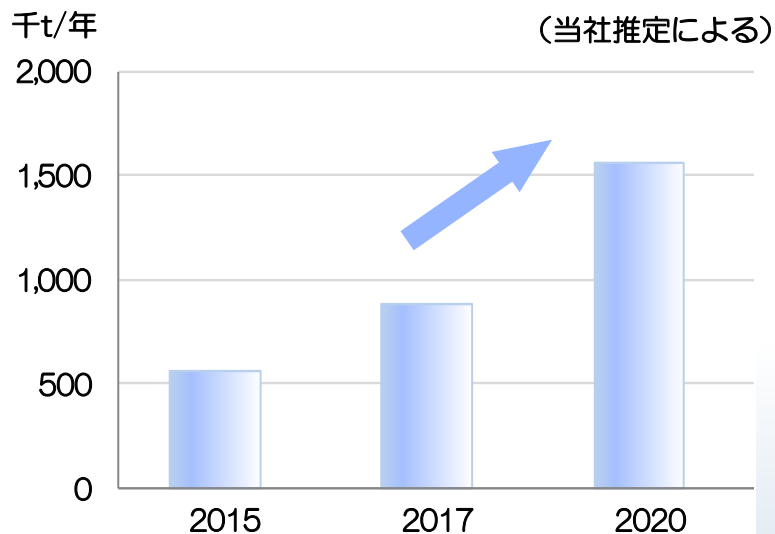
タイプ	4-high 4-stand Tandem Mill
最大速度	550 m/min
最大幅	2,250 mm (ロール面長2,500 mm)
最大重さ	28 t

北米の自動車パネル用アルミニウム材マーケット

CAFE規制に伴い北米での自動車パネル用アルミニウム材の需要は拡大

2020年には100万トン超

北米の自動車パネル用アルミニウム材 需要



当社とConstellium社の技術の融合により高品質な製品を提供

2016年から生産能力年間10万t体制の確立

TAA/Logan工場からも母材供給し、北米で一貫生産体制を確立

第二期投資も検討



TAAがLogan工場に240百万ドルの投資を行うことを決定
(さらに50百万ドルの追加投資も検討)

今後さらに成長が見込まれる北米市場に対応し、
鑄造能力を含む圧延生産能力全般を増強

北米における企業戦略を実現するための基盤



10月28日（現地時間）に
Steve Beshearケンタッキー州知事
ご臨席のもと行った鍬入れ式

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)